

# 第4学年 音楽科学習指導案

指導者 橋本 恵

## I 題材名 せんりつの重なりを感じ取ろう

## II 題材の指導構想

### 1 学習指導要領に示されている指導目標及び内容

<p>A 表現 (1) イ 歌詞の内容, 曲想にふさわしい表現を工夫し, 思いや意図をもって歌うこと。 ウ 呼吸及び発音の仕方に気を付けて, 自然で無理のない歌い方で歌うこと。 エ 互いの歌声や副次的な旋律, 伴奏を聴いて, 声を合わせて歌うこと。</p> <p>B 鑑賞 (1) ア 曲想とその変化を感じ取って聴くこと。 イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り, 楽曲の構造に気を付けて聴くこと。 ウ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして, 楽曲の特徴や演奏のよさに気付くこと。</p> <p>[共通事項] (1) ア 音楽を形づくっている要素 (ア) 音楽を特徴付けている要素・・・音色, リズム, 旋律, 音の重なり (イ) 音楽の仕組み・・・・・・・・・・反復, 変化</p>
---

<p>2 題材について</p> <p>(1) 教材</p> <p>A 「パレードホッホー」 高木あきこ 作詞/平吉毅州 作曲</p> <p>B 「アルルの女」第2組曲から「ファランドール」 ビゼー 作曲</p> <p>(2) 題材観</p> <p>この2曲の教材は, 自分や友達の声や楽器の音を聴き合いながら, 旋律の重なり合う響きを味わうことができる内容である。</p> <p>「パレードホッホー」では, 前半の細かいリズムで動きの多い旋律と, 後半のゆったりとした旋律を対比させながら聴いたり歌ったりする活動を通し, 2つの旋律を重ねる面白さや美しい響きを味わわせていく。「ファランドール」では, 身体表現や指揮をすることで, 2つの異なる旋律(「王の行進」と「馬のダンス」)の反復や重なりによる曲想の変化を感じ取り, 旋律が重なる面白さに気付き, 味わって聴くことを目指す。</p> <p>この題材は, 5・6年生の「いろいろな音のひびきを味わおう」「和音の美しさを味わおう」の学習につながるものである。</p>	<p>3 子どもについて</p> <p>3年生では, 『アルルの女』第1組曲から『かね』で主な旋律と鐘の旋律の重なりを学んでいる。鐘による副次的な旋律に気付くことができた子どもがたくさん見られた。</p> <p>4年生では, 「子どもの世界」で対照的な2つの旋律を重ねる楽しさに触れることができた。また, 「歌劇『魔笛』から『パパゲーノとパパゲーナの二重唱』では旋律の掛け合いや重なりを聴き取り, 音の広がりや場面の様子を感じ取ることができた。</p> <p>本題材では, 旋律の反復や重なりを言葉で表現させることで, 楽曲のもつよさや面白さに気付かせていきたい。本時は, 楽曲を聴き, 口ずさんだり指揮をしたりすることにより, 全員で聴き取ったり感じ取ったりしたことを共有させていく。また, 1曲通して聴き, 旋律の重なりを含めた楽曲全体のよさを言葉で表し, 価値付けを行っていきたい。さらに, 振り返りの場面では, 既習曲の旋律の重なりと比較させることにより, 学習の積み重ねを自覚できるようにさせたい。</p>
---	--

<p>4 復興教育(3つの教育的価値)との関連</p> <p>(1) 生命と心について【いきる】「③【価値ある自分】とのかかわり」 特に自分と友達の聴き取ったことや感じ取ったことを交流し理解する場面において, 聴き取ったことや感じ取ったことを互いに理解しようとしたり認め合ったりすることで, 自分の楽曲への思いや意図を価値あるものとして受け入れられていることを感じ, 自己有用感・自己存在感を感じるとともに自己肯定感を高める。</p> <p>(2) 人や地域について【かかわる】「⑨【仲間や地域の人々とのつながり】とのかかわり」 互いの考えを理解し合うことで, 音楽表現への自分の考えを深めたり, 楽曲への思いや意図を広げたりしていることを感じ, 互いを高め合う大切な存在とを感じる。</p>
--

## III 題材の指導計画

### 1 目標

- 旋律や音が重なり合う響きを感じ取りながら, 旋律の特徴を生かした歌い方を工夫し, 互いの歌声を聴いて声を合わせて歌う。
- 旋律の特徴や音の重なりによる曲想とその変化を感じ取り, 楽曲の特徴に気を付けて聴く。

## 2 評価規準

音楽への 関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
<p>① 旋律の特徴や旋律の重なりを聴き取ったり感じ取ったりして、友達の歌声を聴きながら自分の声を合わせて歌う学習に進んで取り組もうとしている。</p> <p>② 想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付いて聴く学習に進んで取り組もうとしている。</p>	<p>③ 互いの歌声や旋律の重なりを聴き取り、それらが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、歌う表現を工夫し、歌い方について自分の思いや意図をもっている。</p>	<p>④ 友達の歌声を聴きながら、自分の声を合わせて旋律の特徴を生かした表現で歌っている。</p>	<p>⑤ 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取っている。</p> <p>⑥ 曲想とその変化や音楽を形づくっている要素の関わり合いから、想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付いて聴いている。</p>

## 3 指導計画 (全4時間)

時	学習活動	研究にかかわる手立て	指導上の留意点・【評価】
1	<p>1 「パレードホッパー」を聴き、2つの旋律の特徴を捉える。</p> <p>2 「パレードホッパー」の「ア」と「イ」それぞれの旋律に合った歌い方を考える。</p> <p>① リズムや旋律の動き、音符、記号を手掛かりにとらえた特徴を共有する。</p> <p>② 工夫した表現で歌う練習をする。</p>	<p><b>手立て2 共有する場の充実</b></p> <p>○ リズムや旋律の動きなどを全員で共有し、聴き取ったり感じ取ったりすることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リズム・・・ 手拍子をする。</li> <li>・旋律の動き・・・ 旋律線を描く。</li> <li>・音符や記号・・・ 楽譜でスタッカートや8分音符、付点2分音符を見る。</li> <li>・曲想・・・ 行進したり横にゆれたりして変化を感じ取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 聴き取ったり感じ取ったりした曲想について曲を聴いたり歌ったりし、音楽で確かめるようにする。</li> </ul> <p><b>【関心・意欲・態度①】</b></p>
2	<p>1 旋律の重なり気付く。</p> <p>① 重なっている部分を聴き、2つの旋律の重なり気付く。</p> <p>② 課題を設定する。</p> <p>2 2つの旋律を重ねて歌う。</p> <p>① 「ア」と「イ」の旋律を重ねて歌う練習をする。</p> <p>② 「ア」と「イ」の旋律を重ねたときの声の響きを感じ取る。</p>	<p><b>手立て1 課題設定</b></p> <p>○ 「ア」と「イ」の旋律の重なりを気付かせるを生かして、課題設定を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ この曲も旋律が重なっている。</li> <li>・ 2つの旋律を重ねて歌いたい。</li> </ul> <p><b>手立て3 振り返りの活動</b></p> <p>○ 旋律の重なりよさや面白さについて、既習曲の掲示や板書を手掛かりに自己評価を記述させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歌ったり楽譜を見たりすることで、言葉と音や音楽を往還して確かめることができるようにする。</li> </ul> <p><b>【音楽表現の創意工夫③】</b></p> <p><b>【音楽表現の技能④】</b></p>
3	<p>1 「ファランドール」を聴く。</p> <p>① 「ファランドール」を聴き、感じ取ったことや気付いたことを発表する。</p> <p>② 「王の行進」「馬のダンス」の旋律のよさを感じ取る。</p>	<p><b>手立て2 共有する場の充実</b></p> <p>○ 聴き取ったり感じ取ったりしたことを共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手拍子</li> <li>・ ローズむ</li> <li>・ 指揮</li> <li>・ 身体表現 (おどり、楽器の演奏のまね等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既習曲の旋律の重なりを想起することで、「ファランドール」の旋律の重なりに着目して聴くことができるようにする。</li> </ul> <p><b>【関心・意欲・態度②】</b></p> <p><b>【鑑賞の能力⑤】</b></p>
4 本 時	<p>1 前時の振り返りを生かした課題を設定する。</p> <p>2 「ファランドール」の2つの旋律の重なり合いや掛け合いを聴き取る。</p> <p>① 「王の行進」と「馬のダンス」のそれぞれの曲想を想起する。</p> <p>② 曲の構造を確かめる。</p> <p>③ 2つの旋律の重なりよさや面白さを感じ取る。</p> <p>④ 1曲通して味わって聴く。</p>	<p><b>手立て2 共有する場の充実</b></p> <p>○ 2つの旋律の重なりを聴き取り、全員で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ローズむ</li> <li>・ 身体表現 (演奏のまね等)</li> <li>・ 指揮</li> </ul> <p>○ 様子や情景を想像したことを学習シートに記入し、発表し合って共有する。</p> <p><b>手立て3 振り返りの活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 旋律の重なりを含む、曲のよさや面白さについて、既習曲の掲示や板書を手掛かりに振り返りを記述させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2つの旋律の順序を板書で確かめることにより、楽曲の構造(反復・変化)や2つの旋律の重なりを聴き取ることができるようにする。</li> <li>・ 既習曲の旋律の重なりを想起することで、重なりを含んだ曲のよさや面白さに気付く、記入できるようにする。</li> </ul> <p><b>【鑑賞の能力⑥】</b></p>

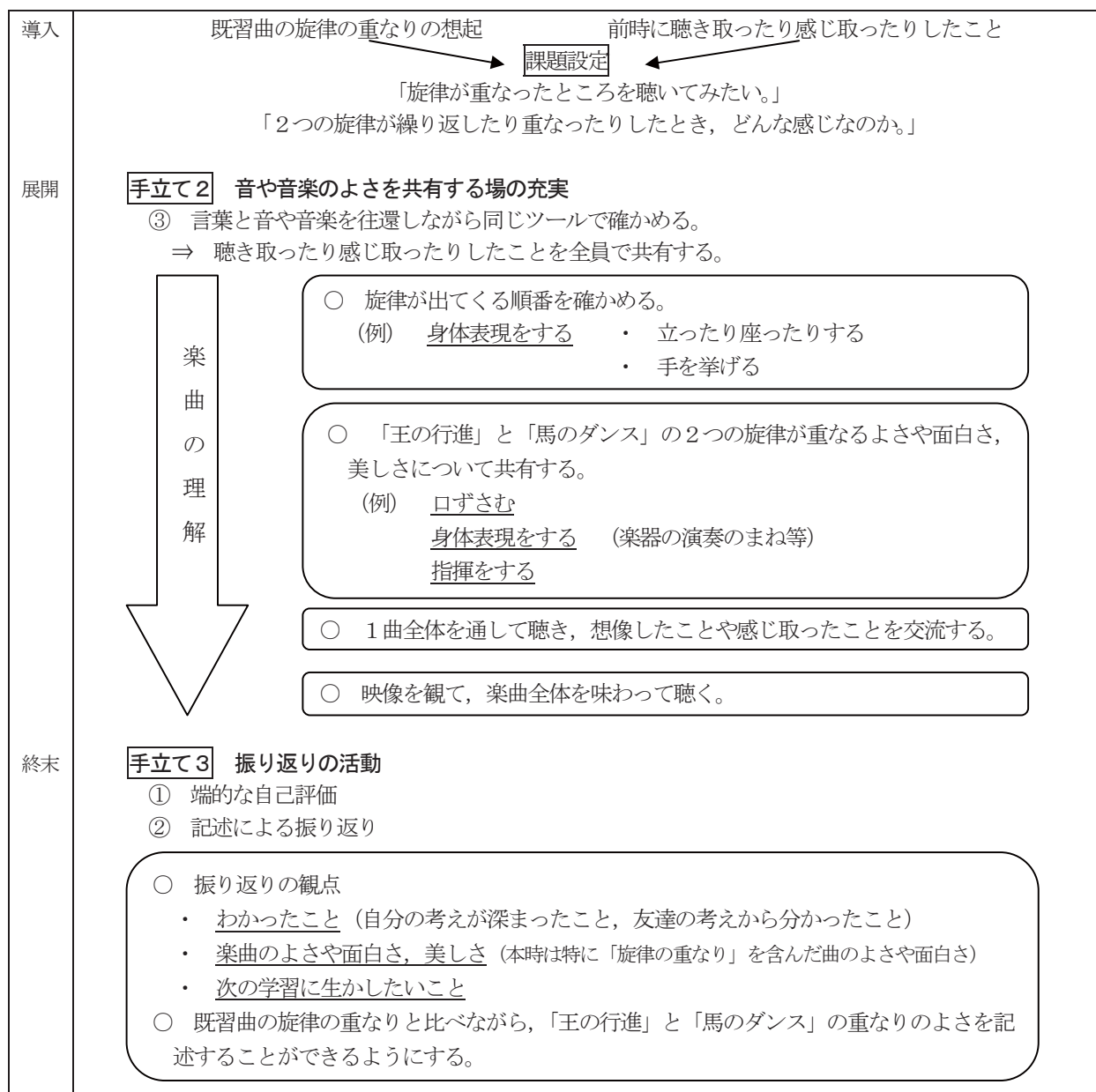
#### IV 本時の指導構想

##### 目指す子ども像

音や音楽に対する考えを互いに尊重し合い、自分の考えを伝え合ったり、友達の考えを理解し合ったりしながら、自分なりの価値を深め広げることで、思いや意図をもって表現したり、音のよさ・面白さを味わって鑑賞したりする子ども

##### 目指す授業像

音や音楽に対する自分の思いや意図を深め広げ、自分なりに価値付けて聴き味わったり、それらを生かして表現したりし、その楽曲さらには音楽そのものへの思いを高め、技能も高まる授業



#### V 本時の指導計画

##### 1 目標

- 旋律の重なりや掛け合いが生み出す響きのよさや面白さ、美しさを感じ取りながら聴き、想像したことや感じ取ったことを言葉で表す。

##### 2 評価規準

###### 【鑑賞の能力】

曲想とその変化や音楽を形づくっている要素の関わり合いから、想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付いて聴いている。

3 展開

	学習活動	時間	研究にかかわる手立て	留意点と評価
導入	<b>1 学習課題の把握</b> (1) 学習内容を把握する。 ・ 「王の行進」「馬のダンス」それぞれの旋律のよさや想像した様子を想起する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             &lt;子どもの反応例&gt;              「王の行進」              ・ 迫力がある。              ・ 王様が胸を張って行進している。              「馬のダンス」              ・ 弾んでいる感じ。              ・ 馬が楽しそうに踊っている。           </div> (2) 課題を把握する。 ・ 旋律の重なり気付きを生かし、課題を設定する。	5		・ 前時に聴き取ったり感じ取ったりしたことを、整理して掲示したり、指揮や身体表現などで想起したりすることで、「王の行進」「馬のダンス」の旋律のよさを想起することができるようにする。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">             2つの旋律が繰り返したり重なったりすると、どのように曲の感じが変わっていくか、味わって聴こう。           </div>	2		
展開	<b>3 学習課題の解決</b> (1) 曲の構造を確かめる。	5	<b>手立て2 音や音楽のよさを共有する場の充実</b> <ツールの共有> ○ 旋律の変わり目で手を挙げたり、立ったり座ったりして、旋律が出てくる順番、旋律の繰り返しや重なりを全員で確かめることができるようにする。	・ 紙板書で「王の行進」「馬のダンス」を示すことで、出てくる順番を確認することができるようにする。  ・ 1曲通して聴くことで、聴き取ったり感じ取ったりしたことを自分なりに味わいながら聴くことができるようにする。  ☆ 曲想とその変化や音楽を形づくっている要素の関わり合いから、想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付いて聴いている。 <b>【鑑賞の能力⑤】</b> (学習シートの記述、発言の内容、行動の観察)
	(2) 2つの旋律の重なりよさや面白さを感じ取る。 ・ 指揮をしたり、身体表現をしたりする。	7	○ 指揮をしたり、身体表現をしたりすることにより、2つの旋律が重なるよさや面白さについて共有することができるようにする。	
	(3) 1曲を通して聴き、想像したことや感じ取ったことを学習シートに記入する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             &lt;子どもの反応例&gt;              ・ 王の行進にどんどん人が増える。              ・ 町中の人が集まる。              ・ 王様を祝福している。              ・ 王様と馬と一緒にダンスしている。              ・ 宮殿でパーティーをしている。           </div> ・ 発表し、交流する。	10	○ 想像したことや感じ取ったことを伝え合い、交流する。	
	(4) 映像を観て、1曲全体を味わって聴く。	7		
終末	<b>4 本時のまとめ</b> (1) 本時の振り返りをする。	5	<b>手立て3 振り返りの活動</b> ○ 板書を手掛かりに、既習曲の旋律の重なりと比べて、「王の行進」と「馬のダンス」の重なりを含む、曲のよさや面白さについて記述することができるようにする。	・ 端的な振り返りと記述による振り返りをし、学習の積み重ねを自覚できるようにする。
	(2) 振り返りを発表する。	4		